

榊プロジェクトディレクターが HUGO の次期会長に就任

理化学研究所（小林俊一理事長）横浜研究所ゲノム科学総合研究センターの榊佳之プロジェクトディレクター（ゲノム構造情報研究グループ、東京大学教授）は、HUGO の次期会長に就任することが決定しました。HUGO 会長の任期は 2002 年 4 月からの 2 年間。HUGO の地域オフィスであるアメリカ地域、ヨーロッパ地域、アジア太平洋（パシフィック）地域の中から指名されます。アジアからの指名は榊プロジェクトディレクターが初めてのことです。

1. 経緯

2001 年 4 月 19 日にエジンバラにて開催された HUGO（ヒトゲノム国際機構）の定例会議「HGM（国際ヒトゲノム会議）2001」に際して行われた定例評議委員会において、次期会長（第 7 代会長）として指名され、内定していました。この度、同機構事務局より正式な連絡があり、榊プロジェクトディレクターは 2002 年 4 月より、会長に就任することとなりました。

今後、ポストシーケンス時代に入り、ヒトゲノム研究には、世界各国・各地域の研究者の協力が不可欠になってきています。これにより、ヒトゲノム研究者の唯一の国際組織である HUGO の役割は一段と重みを増しつつあります。

榊プロジェクトディレクターは、今回、HUGO の会長に指名されたことを受け、「ヒトゲノム多様性研究の国際協力の推進や、ヒトを理解するための比較ゲノム研究の推進に力を注ぎたい」と抱負を述べています。

2. HUGO とは

HUGO（Human Genome Organization, ヒトゲノム国際機構）はヒトゲノムの全解読を目指す国際ヒトゲノム計画に携わっている研究者の国際組織です。HUGO は指導的立場にあるゲノム研究者らが 1989 年、このプロジェクトの国際協力を推進するために設立したもので、現在 50 カ国以上の 1000 人以上の会員で構成されています。会員の中には、DNA 二重らせん構造を発見した J. D.ワトソン、米国のゲノムプロジェクトの代表者フランシス・コリンズをはじめ、各国を代表するゲノム研究者がほとんど入っています。セレーラ社のクレイグ・ベンター氏も会員のひとりです。

HUGO はヒトゲノム研究者の世界で唯一の組織であり、ヒトゲノム計画を推進する各国、各機関、各研究者の連携を図る役割を果たしており、ヒトゲノムの地図作成のための各種の調査からヒトゲノム解析のかかえる倫理的社会的問題（ELSI）まで幅広い活動をしています。

また HUGO はアメリカ、ヨーロッパ、アジア太平洋（パシフィック）に地域オフィスをもち、地域に合わせた活動も進めています。例えば、HUGO Pacific は 2 年に 1 度、地域の研究の推進を図る HUGO Pacific Genome Meeting を開催していません（次回は 2002 年 10 月タイにて開催）。

参考までに、初代会長は Dr. Victor A McKusick(Professor, Johns Hopkins Hospital, USA)、現会長は Dr. Lap-Chee Tsui(Geneticist-in-Chief, The Hospital for Sick Children, Canada)。

(問い合わせ先)

独立行政法人理化学研究所

横浜研究所 研究推進部

鈴木 美香

Tel : 045-503-9117 / Fax : 045-503-9113

(報道担当)

独立行政法人理化学研究所 広報室

嶋田 庸嗣

Tel : 048-467-9272 / Fax : 048-462-4715

HUGO 次期会長 選出に際して

この度私がゲノム研究の国際組織である HUGO の会長に選出されたことは、日本がヒトゲノム計画の中で確かな位置を占めていることを示すものと受け取りたい。

今、ヒトゲノム研究はドラフトシーケンス決定を終え、新たな段階に入った。この転換期に HUGO の代表として責任の大きさを感じている。シーケンス時代は、大規模センターを中心とした集中的かつ効率的なデータ生産が求められ、HUGO の役割は必ずしも大きくなかった。しかしポストシーケンス時代に入り、SNP に基づく各種疾病の解析をはじめ、発生・分化、脳、免疫、進化など多様な研究がゲノムをもとに展開される。そこでは、国際的な研究者の連携や情報交換が特に重要となる。HUGO はゲノム研究者の唯一の国際組織として、このような国際的な研究協力活動を積極的に支援したい。またゲノム研究の成果は、学問の世界から医療やビジネスを通して一般社会へ急速に還元されつつある。しかし、急速な最先端の技術や成果の導入は、社会に不安や混乱をおこす可能性が高い。そこでは専門家がその専門的見識に基づいて、社会への説明や指針を判りやすいかたちで示すことが大切である。HUGO はゲノム研究のプロ集団として、ゲノムの対社会的問題も積極的に取り挙げ検討を加え、見解、声明、指針等を出していきたい。

ゲノム研究はこれまでに日米欧を中心に展開し、日本を除くアジア地域全体からの貢献は少なかった。しかしアジア全体には大量かつ多様な人種があり、他に類のない豊かな研究リソースを持っている。今後これらを有効に活かして、アジア全体がゲノム研究の発信地となるためにも努力したい。

榊 佳之

理研ゲノム科学総合研究センター プロジェクトディレクター

東京大学医科学研究所 教授

榊 佳之(さかき・よしゆき)



1942年、名古屋市生まれ。東京大学理学部生物化学科卒。同大学大学院博士課程修了、理学博士。米国カリフォルニア大学留学。三菱化成生命科学研究所(当時)副主任研究員、九州大学医学部遺伝情報研究施設助教授、同教授を経て、1993年から東京大学医科学研究所教授。微生物遺伝学からヒト遺伝子研究へ入り、家族性アミロイドーシス、アルツハイマー病など病気の遺伝子の解析を手掛ける。国際ヒトゲノム計画に日本を代表して参画し、特にヒト21番染色体解読の国際コンソーシアムを組織し、その全解読に成功。また最近のドラフト配列決定に

大きな貢献を果たす。

文部省重点領域研究「ゲノムサイエンス」の研究代表者、及びヒトゲノム研究の国際組織 HUGO の副会長を歴任。1998年から理化学研究所ゲノム科学総合研究センタープロジェクトディレクター(ゲノム構造情報研究グループ)を兼務。

主著書に「人間の遺伝子」(岩波科学ライブラリー29)、「ヒトゲノム—解読から応用・人間理解へ—」(岩波新書)などがある。